

### 新年度予算に対する評価と見解

# 社会民主・市民会議

【誰もが安心して暮らせるまちづくり】  
少子高齢化対策は、本市の将来像を形づくる重要な課題です。高齢者や若い世代の人々に対する総合的な施策が求められています。そこで、介護保険制度が実施されて一年が経過しましたが、低調だと言われている「在宅サービス」について、①その原因が利用者負担やサービスの質に問題がないのかどうか。また、②「介護支援機構」の相談機能の充実と高齢者の生活に欠かせない「配食や移動」サービスが介護給付から除かれていることから、検討するよう提案しました。③少子化対策については、核家族化や女性が働く機会が増えていることから、公立保育園の「待機児童対策」、「子育て支援センター」の大船地域への開設と「ファミリーサポートセンター」を早期に開設するよう要請しました。また、市内にはボランティア団体が福祉の領域で活動し、多くの成果を上げていることから、④市は、公益性を持つ団体に対して「融資のための基金制度」を創設するよう提案しました。

社会民主・市民会議は、二〇〇一年度鎌倉市一般会計予算並びに提案されました。厳しい財政状況が続く中、行政に対する市民ニーズはますます多様性と高度化が求められています。限られた財源が、市民要望に沿って、効率・効果的に配分されているかどうか、会派の提案や意見を交えながら問題点を指摘いたしました。

#### 【地域主権の確立に向けて】

地方分権一括法が施行され「財源なき分権」と言われながら、一年が経過しました。そこで、①基礎自治体への「税財源の移譲」などについて、国への働きかけはどのように行ってきたのか。②間接民主制を補完する意味での「住民投票制度」について、どのように考えているのか。また、③財政基盤の強化や自己決定権の拡充という観点から「課税自主権」の活用について、検討はされているのか。更に、④最近話題となっている市町村合併特例法の問題点を指摘し、市長の基本的な姿勢について答弁を求めました。

#### 【環境にやさしい自治体をめざして】

市は環境基本計画を策定し、環境自治体の創造をめざしていますが、平成十四年までにダイオキシン類の削減対策に不可欠な「ごみ半減計画」を達成しなければなりません。そこで、最近ごみ量が増加の傾向にあることから、①限られた時間内で、どのような取り組みをしようとしているのか。②特に、ミックスペーパーや生ごみ・廃プラスチックの重要課題についての対応。また、③植木せん定材の「たい肥化事業」の臭気対策と「ごみ処理広域化計画」では、市の独自性を発揮し、主導的立場で取り組むよう要請いたしました。④市は「三大緑地の保全」について、常盤山は買収、台峯は中央公園の拡大、広町は都市林としての保全の方針を決定しましたが、財政的な手法のほかに「公有地との交換」を含め検討を進め、国や県の協力も得て、具体的な保全策を早急に示すことを強く要請しました。

酒井 捷允 和田 猛美 澁谷 廣美

### 新年度予算に対する評価と見解

# 鎌倉同志会

約八十億円。起債により市の借金として残る金額は約二百億円になります。平成十三年度から十七年度までの後期実施計画にこの八十億円はまったく見込まれていません。五カ年で新規事業に百四十五億しか用意できない財政見直しからどのようにならざるを得ないのか。この予算規模の中から八十億円も緑地の買い取りにぎざぎざすることが果たしてよいのでしょうか。

鎌倉同志会は平成十三年度一般会計予算外十六議案のうち一般会計予算には反対の諸議案については賛成しました。竹内市長の就任以来、七年半が過ぎようとしています。平成十三年度予算は市長が市民から負託された任期の最後の予算ですが、この予算を見る限り市民との約束を果たしたとは言えないことは明白です。市長は鎌倉市にとって重要な課題を先送りしながら八年目の任期を終えようとしています。

#### 【ごみ焼却一元化への対応は万全か】

ごみの焼却を平成十四年十二月から名越クリーンセンターに一元化するという当初の計画でごみ処理に対応できるのでしょうか。その前提条件となるごみ半減計画については約三十%の減量化・資源化が図られてきましたが、さらに二十%の減量化・資源化が必要です。その対策としてコンポスト型生ごみ処理容器の購入費助成率引き上げを予算化していますが、土の庭がなければ設置できないような小手先の対策で利用が増えるのでしょうか。今泉クリーンセンターについては中継施設としてだけでなく減量化・資源化処理施設として活用する可能性を調査中とのことでしたが、地元への説明、了解を経て設置を平成十四年十一月末までに間に合わせなくてはなりません。名越への一元化は平成二十二年の稼働をめざすごみ処理広域化計画を前提とした当面の計画であると周辺住民に説明し、了解を得たと聞いています。広域化計画が実現しなければ地元住民を裏切ることにもなりかねません。その見直しと財政負担についても明らかにされていませんが、技術開発は日進月歩で進んでおり、広域化だけが唯一の選択肢なのかも含め、まだ、検討を要する段階と考えます。

#### 【広町、台峯保全への財政支出、後期実施計画には...】

広町、台峯の土地の評価は併せて概算で約四百億円になります。開発区域すべて都市計画公園にするとすれば、国からの補助金は約百二十億円。鎌倉市が一般財源から支出しなければならない額は

伊東 正博 白倉 重治 嶋村 速夫  
本田 達也 高橋 浩司

### 新年度予算に対する評価と見解

# 日本共産党

な調査費の計上は当然であると要求しました。また、千代田区臨海学園の福祉複合施設化の促進、介護保険料・利用料の

日本共産党鎌倉市議会議員団は、平成十三年度鎌倉市予算議案のうち、下水道事業特別会計予算には、使用料に消費税が転嫁されている点と使用料の値上げがされており市民生活に影響を及ぼすことから、一般会計予算には、以下に述べる理由から反対、他の諸議案には賛成しました。

#### 【市民・職員不在の市政を批判】

市民農園用地取得の公文書偽造問題で職員が書類送検され、市の人事政策で元部長が再就職先を退職せざるを得なくなり、関係団体にも多大な迷惑をかけるという不祥事が立て続けに起こりました。本来補助金等は市の公益性と額の妥当性から検討すべきであり、市長は「属人的である」と誤りを認めながら、人件費一律月額三十万を十三年度予算に計上しましたが、これまた「属人的」そのものであります。我が党は三人の救済も含め損害に対して市長の責任を求めました。

#### 【ごみは燃やさず・埋めず・資源化を、ごみ半減化は待ったなしの課題！】

名越の一元化に当たってはごみの半減化が絶対的課題であり、十三年度が正念場です。市民の皆さんの協力で半減化に努めてきたものの、十二年度は増加に転じるという深刻な事態です。目標達成を裏づける根拠は何も示さず「努力する」という答弁のみです。かぎを握るのは家庭系ごみの分別であり、市民の自発的取り組みを応援するため、人的配置などの取り組みの強化を求めました。また、ごみ処理の広域化は、減量化を進めれば大型焼却炉は必要なく、市民も知らない中で進めることは問題があり、見直すべきであると指摘しました。

#### 【特養ホーム待機者百五十人・介護施設の基盤整備を】

我が党の度重なる要請も提案などによつて、十三年度中に一定の前進が見込まれますが、保険料改定の十五年度を視野に入れば、十三年度に予定されている取り組みは不十分です。余裕教室、稲村方崎の土地開発公社所有地の活用など、必要

赤松 正博 清水 辰男 児島 晃  
吉岡 和江 小田嶋敏浩